

長寿ちやうじゆが得えたければ慈悲じひをせよ、富豪ふごうになりたければ徳とくを積つめ、人々ひとびとは立派りっぱな果報かほうを願ねがいつつ陰徳いんとくを積つむことを知らないのだ。それは宗教家しゆうきやうかに責任せきにんがあるのだ。宗教家しゆうきやうかの家庭かていこそ麗うるわしく、人ひとの模範もはんとならねばならないのに、不具ふぐ、出戻でもどり、肺病はいびやう、修羅道しゆらどう、悪い手本てほんを躓あつわしているのは、信仰しんこうのない証拠しやうこだぞ。

小倉市魚町こくらしうおまちの家具店かぐてん、松永ふじは十八歳しんこうのときから信仰しんこうが苦くになり、永照寺えいしやうじで講習会こうしゅうかいのとき講堂こうどうで昼休ひるやすみ、ひとりお聖教しやうきやうを讀よむ小ちいさい坊ぼうさんの側そばに行いき、

「あんたは何処どこか」「わしは枝光えだみつ」「お寺てらか」「いいや」「名前なまえは何なんというね」「芳賀はが」「坊ぼうさんになるのか」「うん」「托鉢たくはつのときは、いつでも家うちにもらいにおいで」「うん行くよ、何処どこね」家いえを教おしえられて毎日まいにち行く。それが後のちの大沼善隆おおぬまぜんりゅうである。

ふじさん家庭かていを持ちもち、慈悲じひ深く、布施ふせの行ぎやうを励はげみ、信仰しんこう厚あつく、遂ついに八十五歳ちやうじゆまで長寿ちやうじゆを得え、小倉一番こくらいちばんの家具店かぐてんとなり、今いまお陰徳いんとくは子孫しそんの上うえに顕あらわれている。